

7月14日

July

生きることの使命を持つ大切さ

(株)インフォランス社長

佐々木雅士

最近では、若くして成功を収める人が多く見られる。株式上場を果たし、数十億の資産を築くことも珍しくなくなった。裸一貫からでもやればできるという夢を、彼らは持たせてくれる。実際、彼らの成功を見て、自分の人生計画を立てる人も多いだろう。それは大いに結構なことだと思う。ただ、その時に気をつけなければならないのは、その目標が単に私利私欲のためのものであってはならないということだ。たとえどんなに大きな目標を掲げても、それが自分のためだけのものならば、達成意欲を持続させることは非常に難しくなる。多くの場合、人は自分に甘いものである。それゆえ、一度成功し、ある程度の富や名声が手に入ると、まだ目標半ばであるにもかかわらず、そこで満足し、立ち止まってしまいう可能性が高いからだ。

しかし、一つでも他人のための目標があればどうだろう。私は六十歳で、世界の恵まれない人々のために三十億円で財団を作りたいと考えているが、こうした利他的な目的ならば周囲に公言することができる。その結果、言った限りは何とか達成しなければならぬと、良い意味で自分を追い込むことになり、最後まで達成意欲を持ち続けることができるのである。

人は、どんな目標を持つのかによって、人生が大きく変わってくる。特に、これからの時代を担う若者には、高らかに宣言できる高尚な目標を持つてもらいたい。それが、元気に生きられる者の使命であり、またそのための精進や努力は、いずれ自分自身に跳ね返ってくるのだから。